

名家連ニュース

令和4年5月16日(月)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052)846-5576 NO.869号

◆◆ 第24回名家連定期総会開催 ◆◆

5月15日(日)午後1時より、名古屋市総合社会福祉会館大会議室において全家族会(12家族会)から28名が参加して、第24回名家連定期総会が開催されました。堀田会長の挨拶に続いて、名古屋市健康福祉局健康部の榊原主幹、愛家連の江崎会長から来賓挨拶を受けました。議長選出を経て、議案を審議しました。1号議案から4号議案に対しては数名の方から質問があり、会長並びに理事が答え、承認されました。5号議案(理事改選)では、12人の理事全員が再任されました。



◆◆ 山田浩雅先生による記念講演 ◆◆

今年の4月から高校の保健体育の授業で精神疾患を学ぶことになりました。永年、早期教育の必要性を訴えてこられた、愛知県立大学看護学部の山田浩雅先生が「思春期におけるメンタルヘルスリテラシーについて」と題して記念講演を行われました。参加者は38名でした。以下にその概要を箇条書きで記します。

- 精神疾患教育の歴史----精神障害が戦後、教科書ではどのように記されてきたか。
- 年齢別の死因順位で15歳から39歳では、自殺が第1位であること。
- ODUP(Duration of Untreated Psychosis = 精神病未治療期間)をできるだけ短く。
- 2004年に WHO(世界保健機関)と IEPA(国際早期精神病学会)が精神病早期支援の国際共同宣言を行った。『学校に通う15歳のすべての若者が、精神病に対処する知識を身につけるべきである』
- 毎年10月10日は、世界メンタルヘルスデー(国際記念日)である。シンボルカラーはシルバー。東京タワーがシルバーライトアップされる。
- 国外における学校教育におけるメンタルヘルスリテラシーの実情
- メンタルヘルスリテラシーのポイント
 - ・こころの不調・病気は思春期から急増する
 - ・こころの不調は誰にでも起こる
 - ・こころの不調・病気には生活習慣が影響する
 - ・一人で抱え込まず、早めに相談する
- 新教科書の内容の紹介。----精神疾患の特徴、予防、回復
- 具体的教材の例----こころの健康教室サニタの紹介(下線部をネットで検索すれば、動画を見ることができます。)



はじめて知ったことが多く、大変刺激的な講演でした。山田先生には、今年度精神疾患の基礎講座(連続講座)の講師を引き受けていただきました。9月にスタートの予定です。(事務局員：広瀬)